



震災前の景色

子どもの頃、夏になると自転車に乗り、長瀬小学校東の道から集落を過ぎ、稲架（はざ）掛けの並木の脇を抜けて海を見に行った。二つ上の姉は祖母とご先祖の墓参りに出かけたという。そこが大畑浜で、古くから製塩や漁労が生業の地だった。地区内の正福寺は天文元年（1532）に京都から来た人が一庵を開いたのが始まりで、寺には、上方から落ち武者として来てこの地を開墾した小野但馬の墓がある。慶長7年（1602）に亘理の領主が伊達成実になり、製塩は大規模な塩田を使用する赤穂式にかわり、収量が増えた。採れた塩は藩の事業として鳥屋崎や大畑浜の御塩蔵に納め、荒浜から貞山堀経由で仙台に運んだ。明治末に製塩が廃止されてからは、農業中心となった。

亘理の代表的な産物のイチゴは昭和の初めに大畑浜の人が仙台から苗を導入栽培したのが始まり。箱に一列に並べて仙台イチゴの名で売り出し、高値で取り引きされた。栽培は次第に隣接地域に広がった。平成の時代に農家の高齢化、後継者不足で休耕地が増え、畑地の有効利用にと始まったのが貸農園「だぶこの里」（だぶこは湿地に生える水葵）である。区画された農地を年3000円の管理費だけで借りられ、栽培の指導も受けられると多くの利用者があつた。そこを東日本大震災が襲い、中止を余儀なくされた。農地の復旧、復興の進んだ今、第二防潮堤となる嵩上げ道路が地区を東西に二分している。大畑浜区長、鳴原邦夫さんに案内いただきました。絵は、正福寺と大櫓から鳥の海、小野但馬の墓碑。（絵と文 佐々木 寛）



編集長のつぶやき

先日、昭和30年2月に亘理町、荒浜町、吉田村、逢隈村が合併して70周年の記念式典に参加させていただきました。山田町長の式辞、安藤町議会議員、村井宮城県知事（代理）、渡邊県議会議員からの祝辞で進行され、記念ロゴマークと「ずっと亘理、未来にわたり」のキャッチフレーズが紹介されました。また、仙台伊達家、亘理伊達家の両ご当主と、亘理伊達家の北海道移住開拓にかかわった5市町（亘理町、山元町、新地町、柴田町、伊達市）の首長さんのご挨拶、対談もありました。吉田東部地区まち協では、町内外の他地区にも学びながら、地域の皆様に生活の彩（いろどり）を与えることのできるよう事業を組んでおります。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。（佐々木）

次回は令和7年6月1日発行予定です

鳴り砂だより

吉田東部地区まちづくり協議会

広報誌 No.54

3月



発行日 令和7年3月1日
 編集 吉田東部地区まちづくり協議会
 住所 亘理町吉田字大塚 185
 電話 0223-36-8831
 F A X 0223-36-8832
 E mail yosidas@town.watari.miyagi.jp
 発行責任者 福本 真

活動報告

新春!! おたのしみ演芸会 (1/25)



今年の「新春!! おたのしみ演芸会」では、地域の方々と一緒にとてもたのしい時間を過ごすことができました。これからも、地域の皆さまと共に「みんなが主役」となれるような居心地の良い地域づくりを大切に参ります。

～防災豆知識～ 他人事じゃない「南海トラフ地震臨時情報」

昨年8月8日気象庁から「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。新しい情報に戸惑った西日本では、花火大会などのイベントが中止されたり、海水浴場が閉鎖されたり、帰省や旅行が中止され、宿泊施設予約のキャンセルがあり、食品の買いだめ、買い急ぎありで、大きな混乱が起きました。コメ不足の原因のひとつともされました。図は南海トラフ巨大地震の想定震源域（赤線内部）とそこでの巨大地震に対する防災対策が必要とされる地域（緑の範囲）を表しています。

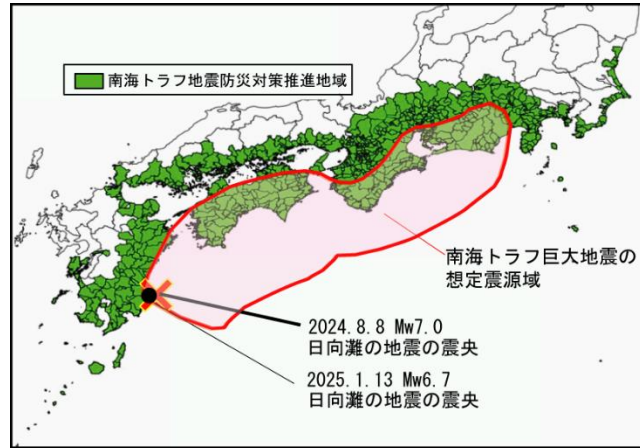


図 南海トラフ巨大地震想定震源域と防災対策推進地域（内閣府資料に加筆）

南海トラフ地震臨時情報（調査中）の情報は監視領域（想定震源域とその周辺）内部にマグニチュード（M）6.8以上の地震が発生した場合や、ひずみ計などで有意な変化が観測された場合など、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合に発表されます。「同（巨大地震警戒）」は想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード（ M_w ）[注] 8.0以上の地震が発生したと評価した場合、「同（巨大地震注意）」は M_w 7.0以上の地震が発生した場合や想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合に発表されます。「同（調査終了）」は（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合に発表されます。

昨年8月の場合は、8月8日16時43分の地震発生（図の赤い×印、 $M7.1$ 、 $M_w7.0$ ）に対して、同日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。1週間後の8月15日17時をもってこの情報に伴う政府としての「特別な注意の呼びかけ」を終了しました。今年1月13日21時19分には $M6.9$ の地震が発生し（図、●印）、21時55分に臨時情報（調査中）が発表されましたが、 M_w が基準以下（6.7）だったことから、同日23時45分に臨時情報（調査終了）が発表され、一連の検討が終了しました。

このような過程は、北海道・三陸沖後発地震注意情報（本誌No.48、令和5年9月発行に紹介）でも起きます。これらの情報に対しては、発災時にすぐ避難できる準備が要請されます。すなわち、①すぐに逃げ出せる態勢での就寝、②非常持出品の常時携帯、③緊急情報の取得手段の確保、④身の安全の確保、が大切です。そして、日頃からの備えの再確認も大切なことです。すなわち、家具の固定、非常持ち出し袋の準備、水や食料の備蓄、避難場所・経路の確認、感震ブレーカーの設置、建物の耐震化、などです。昨年8月の南海トラフの場合、注意期間が1週間だったように、北海道・三陸沖の場合も防災対応を呼びかける期間は1週間とされています。もちろん1週間が過ぎたら後続地震の危険が消えるわけではないことは、南海トラフ地震の場合と同様です。

南海トラフ地震臨時情報はまさに他人ごとではなく、わが身にも起きる状況であることは忘れずにいましょう。図や解説は内閣府、気象庁のホームページを参照しました。（三品）

[注] M_w は断層のずれの規模をもとに計算されるマグニチュードで、地震波の最大振幅を用いて計算されるMに比べ、巨大地震に対してもその規模を正しく表せます。

「道端で」～巨理の方言集より～

- A 「なんだべまず、ばんかだめがげで、どろだらげでねえの」
B 「んだお、あそごのかどのどべこさへって、しっころんで、ふぐもむざげですまったんだでば」
A 「んでも、まずまずけがねくていがったねす、ちつけてえ、んではおみょうぬず」
B 「はい、あんだもね」

「遊びの終わりに」

- A 「くらくなってちたがら、かんけりやめっとわ。ふろたがなくてねがら」
B 「んで、みんなやめっか」
A 「あすた、まだ、あすぶべな」

鈴木光範さん（元小学校教員・元巨理町教育長）の著書『巨理の方言集「んだいっちゃ」』から、著者の承諾を得て転載しました。3月になり、だいぶ日が長くなってきましたが、やはり薄暗い晩方の時間帯は足元に気を付けなくてはいけないようですね。まずまず、けががなくてなによりでした。方言集はこれからも不定期でお届けしますよ～。
んでは、おみょうぬず(^_^)



おたのしみイベント情報

参加者募集中

いきいき健康講座

日時：3月8日（土）
9時30分より（受付9時～）
場所：農村環境改善センター
多目的ホール
講師：・みやぎ南部整形外科クリニック
院長 高橋 良正 氏
・みやぎ南部整形外科クリニック
理学療法士 菊地 祥行 氏
・巨理町地域包括支援センター
星野 素子 氏

ふれあいスポーツ広場

日時：3月16日（日）
9時30分より（受付9時～）
場所：吉田体育館
参加費：大人200円、小学生100円
持ち物：室内用運動靴、飲み物
競技：卓球バレー、ポッチャ、スカットボール、ピーンボーリング

「いつでも」「だれでも」「どこでも」
できるやさしい競技ばかりです。
ご家族・ご友人とご参加ください♪

※希望者多数の場合は早めに締め切らせていただきます。